

# 発刊にあたって

『洪水ハザードマップ』を作成いたしました。これは、霞ヶ浦と恋瀬川を管理する国、県において流域に最大規模の降雨があった場合を想定して、浸水区域等を示した地図に避難所や避難方向等を示し、事前に危険箇所を知ることによって風水害に備えていただくためのハザードマップです。

私たちの住む石岡市は、筑波山系の山々と霞ヶ浦に面し、さらに市内を恋瀬川が流れる自然豊かな都市です。

ひとたび台風等の豪雨が発生すると穏やかな恋瀬川が姿を変えこれまでも家屋浸水や田畑の冠水等の甚大な被害がありました。

中でも、昭和61年8月4・5日の両日、関東・東北地方を襲った台風10号は、石岡地方にも大きな爪痕を残しました。総雨量240ミリ、床上床下浸水合わせて91棟、田畑の冠水476ha、崖崩れ35箇所と100年に1度の大水害といわれました。

その後の平成26年10月5日、台風18号による大雨の影響で恋瀬川が氾濫し周辺地域に大きな被害をもたらしました。総雨量200ミリ、負傷者1名、床上床下浸水32棟、八郷地区では冠水により恋瀬川に架かる橋が通行できなくなり、交通への支障も発生しました。

それ以降も、日本各地では豪雨災害が頻発しており「ひとごと」ではなく「わがごと」として受け止め、日頃からの備えが重要となってきます。

豪雨災害に備えるには、気象情報や河川水位情報に加え、洪水や土砂災害ハザードマップで自分の住んでいる地域の自然災害の危険度を事前に知ることが重要です。

この洪水ハザードマップを活用し家族や地域で確認し話し合い、いざという時の備えの一助になれば幸いです。

石岡市長 今泉文彦



## 防災の心得 五箇条

1. 「備えよ常に」が防災の基本精神
2. 心の備えが災いを最小限に
3. 自身、身内、仲間を手をつなぐ
4. 過去を学び、未来に備える
5. 最初の1時間が命を守る

# 石岡市洪水ハザードマップについて

このハザードマップは、国土交通省霞ヶ浦河川事務所が平成28年8月に、茨城県が平成29年8月に公表した大雨による河川被害のシミュレーション結果に基づき、霞ヶ浦・恋瀬川が氾濫した場合の浸水想定区域の深さや時間、避難に関する情報を示した地図です。

あなたの住んでいる地域周辺の浸水や大雨による被害が発生しそうな場所、避難所や避難経路、家族との連絡方法、地域での対応方法などを事前に確認し、いざという時に備えてください。

大雨のときには、雨の降り方や周辺の状況に十分注意し、危険を感じたら早めに自主的な避難を心がけましょう。

災害のおそれがある場合には、状況に応じて市が避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急）を発令しますので、指示に従って避難してください。また、地図に着色されている浸水想定区域以外のところでも雨の降り方や土地利用の変化などにより、被害が生じる可能性もありますのでご注意ください。

なお、この地図は、地域での利用も目的として作成しています。「自分たちの地域は自分たちで守る」は共助の基本であり、近年、様々な災害に対応するため、自発的な地域の防災活動が求められています。

配布されたこのハザードマップを基に各自治会や自主防災組織などにおいて「逃げ遅れゼロ」を目指し、災害が発生したときに地域から逃げ遅れなどによる被害が出ないように、平常時から防災活動や防災意識の向上のために活用してください。

## 浸水想定区域・家屋倒壊等氾濫想定区域

	凡 例	避 難 行 動	
早期の立退き避難が必要な区域	氾濫流	木造家屋が倒壊等をもたらす氾濫流が発生するおそれのある区域	木造家屋が倒壊するような堤防決壊等に伴う氾濫流が発生するおそれがあることから、 <b>早期の立退き避難</b> が必要。
		家屋が水没するおそれのある区域	最上階も浸水するおそれがあることから、 <b>早期の立退き避難</b> が必要。
		その他の浸水想定区域	床上浸水または床下浸水が想定されることから、立退き避難が望ましいが氾濫がすでに開始している場合など、避難所へ移動することがかえって危険な場合は、自らの判断により屋内での安全確保（ <b>垂直避難</b> ）が必要。
		浸水想定区域外	

## 浸水継続時間

想定最大規模の降雨に伴う洪水により、霞ヶ浦・恋瀬川が氾濫した場合の浸水状況をシミュレーションにより予測したものです。

	浸水継続 672時間(4週間)
	浸水継続 336時間(2週間)
	浸水継続 168時間(1週間)
	浸水継続 72時間(3日間)
	浸水継続 24時間(1日間)
	浸水継続 12時間

## 想定浸水深の目安

### 浸水深の色の見方

